

「持続可能な地域づくりの方法を考える」

担当教員 金藤 正直

コースの概要

日程 2021 年 3 月 12 日（金）、16 日（火）
場所 長井海の手公園・ソレイユの丘、谷津干潟自然観察センター
参加人数 8 名

コースのねらい

このコースでは、訪問先での地球環境の歴史、自然災害への対策、自然環境や生物多様性の保全、環境保全型農業とこれによる地域振興策などに関する学習・体験を通じて、将来必要とされる持続可能な地域づくりの方法を検討していくことを目的としました。

内 容

フィールドスタディは、2 月下旬から 3 月上旬まで実施する予定でしたが、緊急事態宣言により訪問日程を 1 週ずらしました。しかし、その後の宣言延長により、訪問する予定だった 6 つの施設のうち、4 カ所訪問することができませんでした。そこで、ここでは、訪問できた 2 カ所の施設での取り組みを紹介します。

まず 12 日（金）に訪問した長井海の手公園・ソレイユの丘では、園内の説明とともに、三浦半島の自然を活かした以下の体験を通じて、地域の環境保全や生物多様性を高めていくための方法について学習することができました。

●はち育

はち育とは、園内で飼育しているみつばちの特性を活かした環境教育プログラムであり、ソレイユの丘では、ここで採蜜したはちみつを使い、商品開発等地域連携の促進や地域振興を図っています。ここでは、地域連携や地域振興の方法だけではなく、養蜂場の見学と地元養蜂家による解説を通じて、みつばちの生態や生物多様性について学びました。



はち育体験の様子

●収穫体験

ここでは季節の野菜を収穫し、また地元農家による解説を通じて、農業を通じた地域振興（野菜の販売だけではな



収穫体験の様子

く、周辺の学校への教育支援など）の方法を学びました。

●ふれあい動物村

ここでは、飼育員による解説を通じて、動物とふれあうことで感じる生命や環境の大切さや、排泄物を使った堆肥を植栽に活かす循環型管理システムについて学びました。



カビパラとふれあう参加学生

次に、16日（火）に訪問した谷津干潟自然観察センターでは、ラムサール条約登録地の谷津干潟の基礎を座学で学習し、またその後、レンジャーの案内で干潟に入り、干潟内の生物を観察し、また、東京湾から干潟に漂着したゴミやマイクロプラスチックを拾い集める、といった体験も行いました。このような取り組みを通じて、地域としての干潟保全の必要性和干潟の価値について学習することができました。



干潟内の生物観察の様子

学習を終えて

今回は、緊急事態宣言やその後の延長により、訪問予定であった6カ所の施設のうち、2カ所のみでの学習だったために、コースのねらいに示した「地球環境の歴史、自然災害への対策」の目的は十分に達成できませんでした（訪問できなかった4カ所の施設での学習については、協力機関の西武造園（株）から提供いただいた映像資料を使用し、学生各自で行ってもらいました）。しかし、訪問先での「自然環境や生物多様性の保全、環境保全型農業とこれによる地域振興策などに関する学習・体験を通じて、将来必要とされる持続可能な地域づくりの方法」については、参加学生に対して学習機会を提供することができました。最後に、参加学生の声の一部を紹介します。

●実際にフィールドに出て学べるという体験はとても貴重でした。専門家の方々の意見を聞けて、自分の考えにも刺激が生まれ、とても良かったです。

●制限のある中でしたが、できる範囲で実際に体験をしながら考えることができ大変貴重な経験となった。

●ビジネスデザインシートを体験学習の前に一度考えて、体験後にもう一度デザインシートを作ることは自身の考えの変化に気づくことができ、大変良い経験であると思いました。FSの全体を通して見ても非常に実りある時間となり、参加して良かったと思っています。

●コロナ禍でしたが、オンラインでの事前学習・事後学習や日帰りの現地調査でフィールドスタディを体験できたので良かったと思う反面、やはり少し物足りなさを感じました。

●他の参加者と一緒に様々な体験を通じて勉強することができ、とても良かったです。